

災害時要援護者の避難対策に関する主な検討課題について（案）

（検討課題 1）

災害時要援護者の避難対策を向上させるために、関係機関等との連携をいかに高めていくべきか。

（検討のポイント）

市町村が、災害時要援護者支援班を立ち上げ、内部的に要援護者の支援に関する情報を収集・集約できる体制を構築するとともに、対外的な窓口を明確にし、関係機関等との間の情報伝達や避難支援の連携体制を構築することについて

大規模災害時、被災市町村の災害時要援護者支援班は行政固有の業務、関係機関等や広域派遣要員の調整に重点を置き、要援護者に対する直接的な支援は自助・共助、関係機関等の支援活動、広域派遣要員による活動等が中心となって進めていくことについてどう考えるか。

要援護者の避難対策に資する関係機関等との新たな連携関係の構築や、専門ボランティアと一般ボランティアの連携等、関係機関等との更なる連携の強化に積極的に取り組んでいくためにはどのようにしたらいいか。

市町村において、共有情報方式により要援護者本人から避難支援に資する情報を関係部局間で共有し、避難支援体制の整備に活用していく取組を更に促進していくためにはどのようにしたらいいか。また、より詳細な情報を入手するため、要援護者本人から同意方式により避難支援のための情報を収集・共有しやすい環境を更に構築していくためにはどのようにしたらいいか。

要援護者の避難対策に関する関係団体等が、要援護者情報を積極的に収集し、避難準備情報等の各種情報を伝達・共有するためのネットワークの構築を進めることについて

関係団体等はネットワークを積極的に構築し、要援護者の多様なニーズに応じた専門的・具体的な情報の提供や、要援護者の態様に応じた情報提供方法の改善等については、関係団体等の個々の特性をいかしつつ対応していくこととし、市町村等は関係団体等の取組の促進・支援により重点を置いていくことについてどう考えるか。

関係団体等が、初動対応マニュアルの整備、生活必需品の備蓄、発電機の整備、建物・機器等の耐震化、実戦的な防災訓練の実施等、個々の防災力の向上により積極的に取り組んでいくためにはどのようにしたらいいか。

(検討課題 2)

災害時要援護者の避難所での支援を向上していくために、どのような取組を実施していくべきか。

(検討のポイント)

保健師、看護師等の広域応援・受入体制を整備し、保健師、看護師等の避難所への巡回体制を強化するとともに、災害時要援護者のニーズを把握するための情報収集・共有体制を構築することについて

避難所において、要援護者のための相談窓口を明確にし、要援護者のニーズ把握や各種支援の向上を図ることについてどう考えるか。

保健師等の広域派遣の必要性や要援護者のニーズを把握するため、避難所と市町村、都道府県、関係機関、国等の間における要援護者の支援に関する各種情報を収集・共有できる体制を構築するためにはどのようにしたらいいか。

避難者全員に対する平等・公平性を重視するあまり、災害時要援護者が結果的に不平等となるようなことのないよう、避難所運営のルール化を進めていくことについてどう考えるか。

災害時要援護者支援班、介護保険制度関係者等との連携を密にするとともに、各災害時要援護者の状況に適した避難所（緊急入所、福祉避難所等）へのスムーズな避難体制の整備を図ることについて

「福祉避難所」に関し、老人福祉センター、宿泊施設等との協力関係の構築を進めるとともに、一般の避難所内に「福祉避難室」を設けるなどしつつ要援護者の避難場所の確保に積極的に取り組み、要援護者が自ら避難場所を選択できる環境の整備を進めていくことについてどう考えるか。

大規模災害時に市町村が、緊急入所、福祉避難所等の避難先の判断基準（具体的な考え方）等の高齢福祉・介護保険制度の運用に関する全般的な方針の決定や関係施設間での受入人員の調整等を迅速に実施するためにはどのようにしたらいいか。

ケアマネージャー等の介護保険制度関係者が、緊急避難所、福祉避難所のあり方等についての理解を深めるとともに、市町村、関係機関等の中でスムーズな連携を図ることができるような研修・訓練を積極的に開催していくためにはどのようにしたらいいか。

要援護者本人が、発災当初における市町村等の対応の困難性を十分理解した上で、自助努力や共助、生活必需品の備蓄、家具の転倒防止等の取組を更に進めていくためにはどのようにしたらいいか。